

令和 7 年度 林業普及週間現地情報 (5/5～5/9)

森林管理課

宮古木工芸の取り組み

5 月 9 日 (金)

令和 7 年 5 月 9 日 (金) に宮古農林水産振興センターの職員が宮古島の木工業者である宮古木工芸を訪問し、新年度着任した職員のあいさつと木材の利活用について意見交換を行った。宮古木工芸は、昭和 36 年に創業し、三線製作や家具の修繕等を手掛け、平成 30 年度には、その活動が本県の農林漁業振興と発展に寄与したとして沖縄県農林漁業賞（林業部門）を受賞している。また、宮古森林組合の理事や宮古林業研究会の会員になるなど、宮古島内における森林、林業、木材産業の普及発展に積極的に取り組んでいる。

今回は、作業内容（三線製作、家具修繕）や作業場の紹介等をしていただいたが、作業場には、市民から買い取った材や工事等で不用となった材が保管されていた。作業場には、テリハボクやイヌマキに紛れて、丸太の状態で作立かけられているリュウキュウコクタンがあった。それについて「お客さんから情報があって、処分予定だったリュウキュウコクタンをもらってきた。沖縄本島や八重山では、取り尽くされているが、宮古島には、まだある。そんな貴重なリュウキュウコクタンを知識のない人は捨ててしまう。この状況をどうにか変えて宮古島の財産を守っていききたい。」と話していた。リュウキュウコクタンは、三線の棹の高級材として知られているが、棹として利用できるには、樹齢 100 年以上のリュウキュウコクタンが必要とされている。しかし、県内・国内での資源量は極めて少なく入手が困難なため、後世の三線の棹として利用できるよう、各地でリュウキュウコクタンの植樹活動等が行われている。

今後も積極的に地域の林業・木材産業に関わる方々と意見交換を行い、その想いに応えられるよう、関係者と協力して林業・木材産業の普及、発展に努めていきたい。



作業場での説明の様子



処分予定だったリュウキュウコクタン

(報告者：宮古農林水産振興センター 山城、玉城)